

## 【ゲスト】 佐藤 大史 氏



### 1. 就農までの経緯

出身は黒川郡大和町。バックパッカーとして海外で5～6年を過ごし帰国。営業職の会社員として勤務して、営業成績もすこぶる良かったが、将来の生活を再設計するために退職。山小屋生活を半年送った後、就農を決めた。

秋保のくまっこ農園で1年間研修の後、平成28年に34歳で川崎町で独立就農し、奥様も1年遅れて就農。農薬や化学肥料を使わない野菜作りに夫婦で一緒に取り組んでいる。

農業次世代人材投資事業（準備型・経営開始型）を活用することで、「自給自足的な農業をやりたい」という想いを現実のものとした。

### 2. 現在の生産と販売

60aの畑でゴボウ、ケール、カボチャ、カブ、レタス、トマトなどを栽培。雪下人参をはじめ、辛み聖悦大根、ウツギゲンスケ大根など希少種の栽培とともに種取りのための栽培を行っている。

このほかに今年は田1.2反を借りて、ササシグレ（ササニシキの親…化学肥料や農薬を使用しない栽培に適している）を作付け。大豆を植えるなどして、無農薬、無肥料栽培を試している。また、田の一部にはマコモダケも作付けした。

販売は、宅配をベースにしている。顧客は、仙台市を中心に20～30軒。

6月～11月の毎月第3日曜日、川崎町の廃校となった小学校でオーガニックマーケットを主催開催し、消費者と生産者を繋ぐ活動を積極的に行っている。オーガニック農家が栽培した野菜、天日干しトウモロコシで作るポップコーンなど好評を得ている。

近々、秋保にレストランを出店する予定である。



### 3. 新規就農希望者に一言

農地探しの苦労を聞いたところ、「まったく苦労はなかった」との答え。土地が探せないことで就農をあきらめる人も多いことについて……

「土地がないというのは違う。地元で溶け込んでないから、農地を借りることが出来ないのだと思う。」と一言…… 就農したい地域に自ら飛び込む積極性も必要と感じた。